



閉じる



ダウンロード



印刷



文字拡大



文字縮小

芦屋市 平成31年 3月 定例会（第1回） 03月22日－04号

P.176 8番（大原裕貴君）

◆8番（大原裕貴君）＝登壇＝日本維新の会芦屋市議会議員団を代表し、第20号議案、平成31年度芦屋市一般会計予算並びに特別会計、企業会計、財産区会計の各予算について、賛成の立場で討論をいたします。

防災や良好な住宅地としての魅力向上など、本市が担わなければならない責任を果たす一方で、魅力向上の取り組みを進めておられること、また限られた資源を有効に活用すべく、事業の取捨選択をしながら堅実な行政運営をされているものと高く評価いたします。

しかし、シティプロモーション事業や屋外広告物条例に関する取り組みなど、事業の着地点が市民から見てもわかりづらくなっていると思われる事業もあると感じております。市として取り組んでいる事業は、いずれも相応の予算をかけている事業であります。着実に成果をおさめるためにも、目的とゴールを明確に設定し、時には市民との意識共有をした上で協力を求め、事業を進めていただくことを要望いたします。

JR芦屋駅南の再開発は、非常に大きな費用を投じる事業であります。地域住民のみならず、市民全体に影響する事業であり、市民にとってプラスとなる施設にすることは当然です。一方で、現在進められているエリアブランディングの取り組みと絡めて、芦屋の新たな魅力発信の拠点として他市の人へのPRにも活用できる、そういった施設をつくることも念頭に入れ、設計業務を進めていただくよう要望いたします。

病院事業会計については、例年の予算よりも赤字額が抑制された計画が立てられています。芦屋病院新改革プランの成果があらわれ出している影響かと思います。この点に関しては、高く評価をいたします。

ただ、2025年には、隣の西宮市に大規模な県立病院が建設されると言われており、医療サービスの利用の選択肢という点で大きな影響があるものと予測します。芦屋病院が、これからも市民のための総合病院であり続けるためには、新改革プランによる経営改革の完遂が必要不可欠だと感じます。病院事業に関しては、これからの芦屋病院のあり方において分水嶺に立たされているということを意識した経営改革を進めていただきますよう要望いたします。

長期財政収支見込みにおいて、10年後の財政について非常に厳しい予測が出されました。少子化を食いとめていく施策を進める一方で、最悪のケースを想定しながら行政運営を進める必要があると感じています。事業の取捨選択による、堅実でかつ慎重な財政運営を進めながら、業務効率化を進め、持続性と安定性を伴う行政運営を進めていただくことを要望し、各会計予算について賛成といたします。

以上、一般会計予算を初めとした各会計予算に対する賛成討論といたします。